共同体メカニズム研究学会

行動経済学と神学のエコーで
「ガラテヤ書」から政治経済を考える

なぜ福音派は無条件の愛と反するように思えるトランプ政権の政策を支持する場合があるのか

開催日時
2026年 2月 10日（火）
13:00　～15:00

会場
同志社大学今出川キャンパス
至誠館2階 S24

講師
大垣　昌夫　氏

参加費無料・事前登録不要どなたでもご参加いただけます

―講師プロフィール―

大垣昌夫　氏　→

- 同志社大学経済学部特別客員教授
- 慶應義塾大学名誉教授
- 共同体メカニズム研究学会会長
- 日本学術会議経済学委員会委員長

福音派と米国政治経済の歴史的関係

トランプ政権の重要な支持基盤はキリスト教福音派である。ノーベル賞経済学者 Robert Fogel は 2000 年の著書で、独立戦争前からの 3 次にわたる大覚醒運動が約 100 年のサイクルで米国の政治経済に平等主義に向かう方向で大きな影響を与えてきたことを説明した。

福音派の矛盾する支持行動

福音派の信仰
聖書を神のことばと信じ、アガペ（無条件の愛）を最高価値とする。

政策支持の矛盾
ガザのイスラム教徒の子どもたちの命に関わる平等主義的ではない政策も支持する場合がある

本質的な問い
なぜアガペに反するように思えるトランプ政権の政策を支持するのか

ガラテヤ書」解釈のずれという仮説

宗教改革の教義
16 世紀、ルターやカルバンらプロテスタントは「行為義認」に反対し、パウロのローマ書とガラテヤ書から「信仰義認」を強調した。

現代の神学的仮説
T. David Gordon は 2019 年の著書で、宗教改革時からのプロテスタントのガラテヤ書の主流の解釈には重大なずれがあるという神学の仮説を提唱した。

行動経済学との接点
本講演では、この解釈のずれがアガペに反するトランプ政権の政策を福音派が支持する原因のひとつとなっているという仮説を提唱し、参加者とともに考える。

【共同体メカニズム研究学会とは】
経済学、経営学、人類学、心理学、倫理学、神経科学、哲学、神学、医学、教育学、老年学、環境学、文学を含む多様な学問分野 おいて、共同体メカニズム 関する研究および学際的研究の促進を目的とする学術団体です。

【オンライン配信・録画について】
本講演会は、**講演部分のみ**を Zoom で録画し、後日、インターネット上で一般公開する予定です。
あらかじめご了承ください。また、下記の学会メールアドレス宛にご連絡いただき、**学会メーリングリストにご登録**いただくことで、**講演部分のみオンラインで参加・視聴**することができます。

お問い合わせ：　共同体メカニズム研究学会 communitymra@gmail.com